



# 成羽病院通信

☎成羽病院 ☎(42)3111

- 地域連携室の業務内容**
- 入院、退院の患者支援
  - 医療、福祉、および介護などの相談
  - 他医療機関からの転院支援
  - 院内連携カンファレンスの開催
  - レスパイト入院の受入れ調整
  - 地域の医療機関、施設、在宅サービス事業所、訪問看護ステーションなどの連携
  - 訪問診療、訪問看護の調整
  - 外来・病棟スタッフとの連携
  - 「連携通信なりわ」の発行(年12回) など



**地域連携室の役割**

平成30年4月1日付けで、地域連携室は川上訪問看護ステーションと同成羽事業所とともに、院内に新たに創設された地域医療部の所属となりました。

市は、少子高齢化が他市町村と比べて急速に進展しており、地域包括ケアシステムの構築が求められる中、当院がどのように地域医療を担っていくかが大きな課題となっています。高齢者世帯、独居、認知症の増加、介護者不足など、在宅生活が困難な要因が増加しています。が、「最期までその人らしく過ごせるための支援」をしていくことが重要であり、平成30年の診療報酬・介護報酬の同時改訂でも在宅支援に重点が置かれています。

地域連携室では、住み慣れた地域で安定した生活を送っていただけるように、今ある社会資源を活かすことができる体制の構築と、医療・介護・福祉の連携を強化することで、治療に関することから各種制度の説明まで幅広く対応できる相談窓口として支援をしていきます。

## 地域連携室の役割

地域連携室 西川 寛紀

# 高梁知るぶふれ<sup>12</sup>



知るぶふれは「高梁を知る」と「シルブプレ」(フランス語で「よろしければ」)をかけた言葉です

市内でユニークな活動をしている人を、外国人である私が訪ねて話を聞く「高梁知るぶふれ」。

私は7月末で市の国際交流員を退任したので、この2年間を振り返り、思いを記したいと思います。

高梁をより良く知るには短い2年間でしたが、このコーナーに登場していただいた人や高梁市図書館で開催したイベントを通じて出会った人達のおかげで、地方の小さなまちならではの連帯感や、少子高齢化などの問題に負けずに新しい形でまちづくりをしていく力などに触れることができました。

今思えば、もっと多くの人達と協力して、企画を作り押し上げる、あたかも「政治」と言えるようなこともできたかもしれません。

たとえば、夜勤をしながら孤独に暮らす技能実習生のような外国人住民が集まることのできる機会、国際的な催しなどを多く行うことで、県内で外国人の割合が最大の高梁市が、日本で最も外国人が住みやすい自治体になるよう挑戦すること。

また、キャンプやクライミングなどのアウトドア・スポーツが盛んなまちとして、河川を利用したスポーツや自転車ルートなどを充実させ、

国籍を問わず世界のスポーツ好きを引き寄せる、というのはどうでしょうか。

高梁市の力は、遺産よりも、自然よりも、変化への対応能力だと思えます。10年先を想像すると、常に優れた人材を受け入れながら、共通の目標の下、市民が一つになって企画を実現していく情景が思い浮かびます。視野を広げ、意見を交わし、個人あるいは数人の仲間からでも、下から上への「政治」をつくっていくことができれば、乗り越えられない問題はありませぬ。

皆さん、2年間大変お世話になりました。高梁は私の日本の故郷です。もちろんまたやって来ますよ。メルシーボク、オーヴォワー(本当にありがとう、またね)。



高梁のまちを眺めるエド



# 健康づくり応援通信<sup>12</sup>

☎健康づくり課 ☎(21)0267

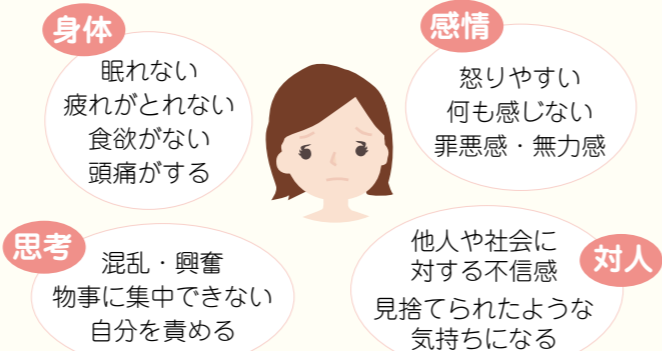
## 災害時のこころのケア

突然の大きな災害の後には、「こころ」と「からだ」にさまざまな変化が起こり、被災者はもちろん、支援者も大きなストレスを受けています。

これは、日常とかけ離れた大きな出来事に対して誰にでも起こり得ることですが、時間とともに元の状態に回復します。

無理をせず、「こころ」と「からだ」を大切にしましょう。

## 「こころ」と「からだ」に起こりやすい変化



## 少しでも回復するためにできること

- 睡眠・休息・食事を十分にとる
- 困っていることを素直に言葉にして家族や友人と話す
- 軽い運動やストレッチをおこなう
- がんばりすぎないようにする

## こんなときは早めに医師や保健師に相談しましょう

- 気持ちや体の苦痛が長く続くと感じたとき
- お酒の量が増えた、飲まずにいられない
- 寂しいのに素直に話せる相手がいない
- 家族や友人の様子が心配なとき

## 相談窓口 一人で悩まずお気軽にご相談ください

- ▶ 健康づくり課 ☎(21)0228
- ▶ 備北保健所 ☎(22)2836
- ▶ こころの医療たいようの丘ホスピタル ☎(22)2217
- ▶ たかはしあんしんでんわ ☎0120-778-553
- ▶ 岡山県精神保健福祉センター ☎086(201)0850

# 協力隊がゆく<sup>25</sup>

私の主な活動は、宇治町にある旧西仲田邸という古民家の再生と、高梁の食材や文化などの魅力を生かせるカフェの開業を目指すことです。その一環として、平成29年7月に市街地の内山下で週末限定のカフェ「古民家カフェ茶蔵」をプレオープンしました。高梁産の食材の素晴らしさと、多くの方のご協力や応援に支えられ、1周年を迎えることができました。本当にありがとうございました！

実際にお店を運営し、多くのお客様と直接関わったことで、飲食店経営の難しさや面白さ、その他のたくさんの方の経験を次のステップに生かすことができました。

こんにちは、松野です！高梁に移住しては3年。0歳だった次男は岡山弁を話し、長男は来年小学生。夫はピオーネ農家として独立して初めての収穫を控え、そして私は「起業型」地域おこし協力隊員となって1年10カ月、とても貴重な経験をさせていただきました。



まつの なつこ 松野 夏子 隊員



宇治町の旧西仲田邸

内山下のプレオープン店は惜しまれつつ閉店

め、ご愛顧いただいた内山下のプレオープン店をこの7月末で閉店しました。

旧西仲田邸のリフォーム完成目標を来年夏と定め、今後は古民家再生ワークショップなどを開催しながら、宇治マルシェ(毎月第1木曜日・宇治地域市民センター)など各地のイベントにカフェとして出店する活動をしていきたいと思っています。

そう遠くない将来、大好きな里山である宇治の町で、「古民家カフェ茶蔵」本開店のご案内ができるよう張り切っています。